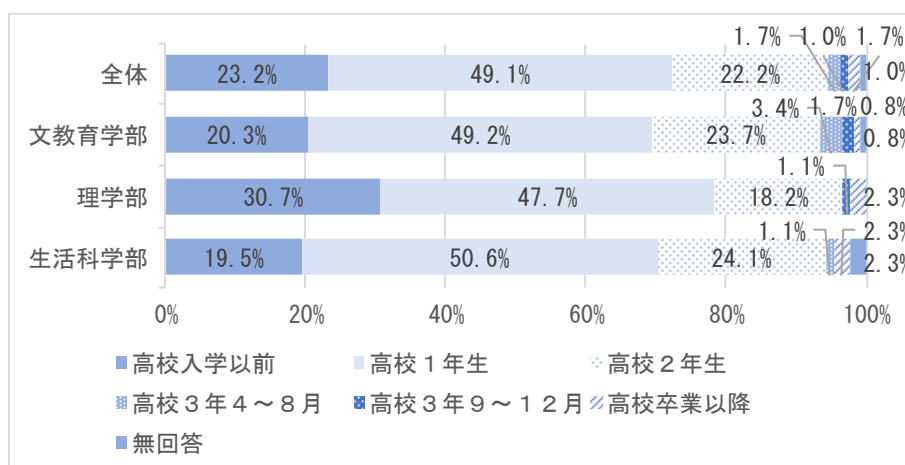


第4章 新入生「追加質問票」(高校時代の進路選択)の結果

本章では、一般入試合格者のみに配布した追加質問票 298 名の結果を報告する。追加質問票では、これまでの進路選択にかかわる質問や、高校時代の進路指導、お茶の水女子大学を選んだ理由等について尋ねている。

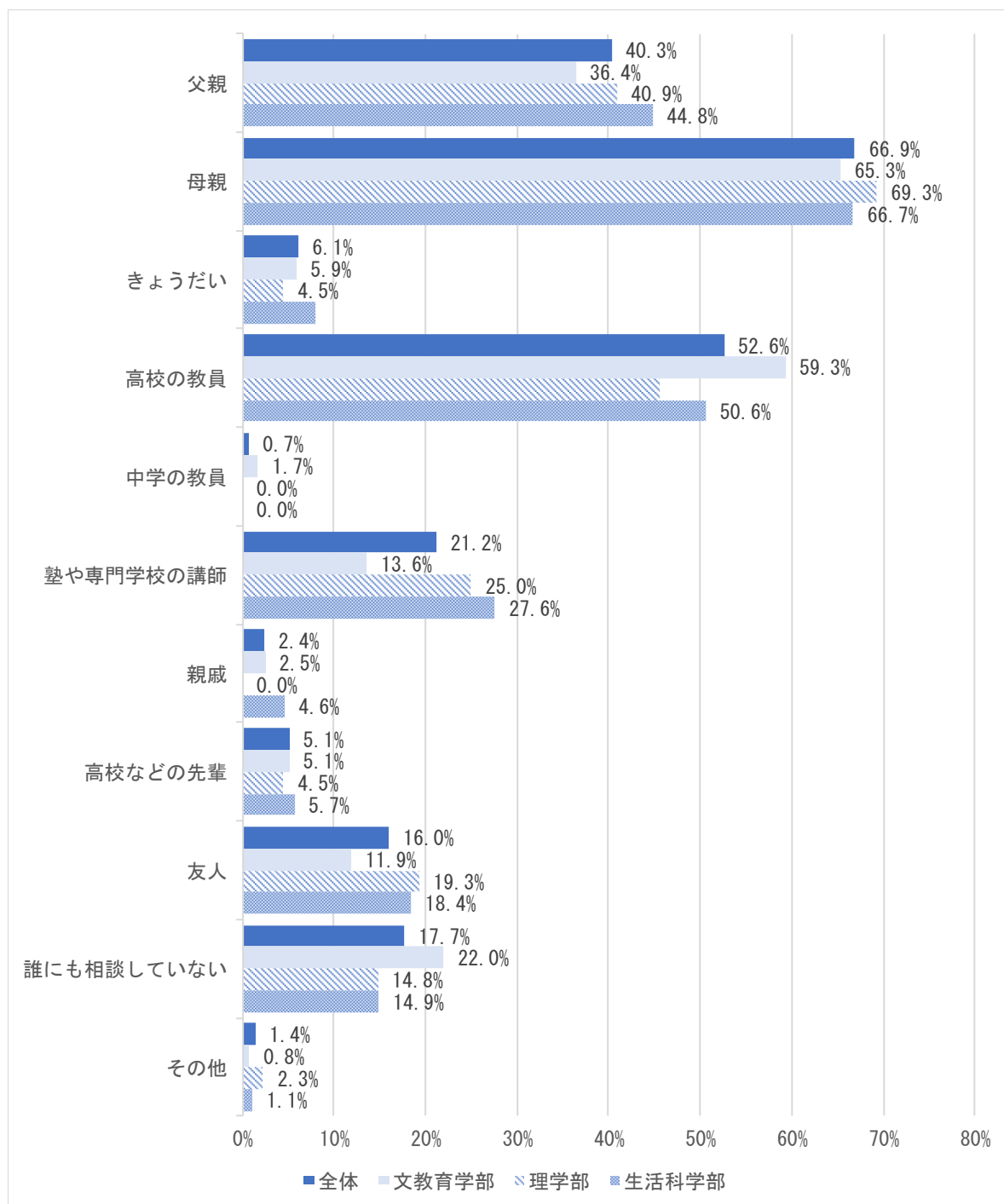
図表 1-1 では、高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について、尋ねたものである。



図表 1-1 文理選択の時期

全体では「高校1年生」に文理のコース選択をしたと回答した割合が49.1%と最も多い割合を示しており、次いで「高校入学以前」が23.2%、「高校2年生」が22.2%と続く。全体の90%以上が、高校3年生になる前に文理の選択が終了している。

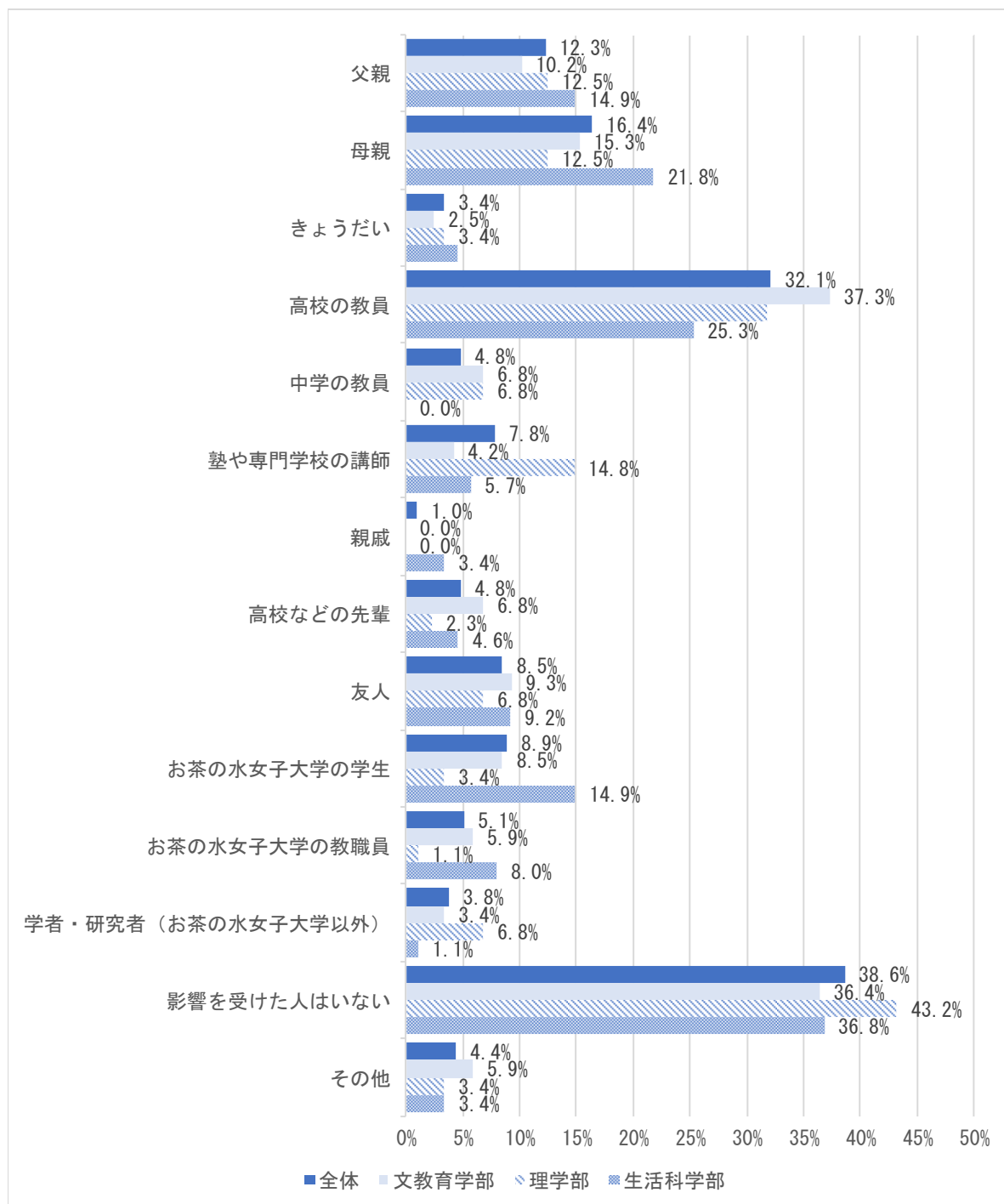
図表 1-2 では、専門（学科）を選ぶ際に、相談した人について、複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も多い割合を示しているのは、「母親」の 66.9%であり、次に「高校の教員」52.6%であった。「誰にも相談していない」と回答した割合も 17.7%と一定数あることが示された。



図表 1-2 専門（学科）を選ぶ際に相談した人

図表 1-3 では、専門（学科）を選ぶに当たって影響を受けた人について、複数回答可として尋ねた結果である。最も多いものは「影響を受けた人はいない」で 38.6%であった。影響を受けた人がいると回答した中では全体では「高校の教員」が最も多く 32.1%、次に「母親」が 16.4%、

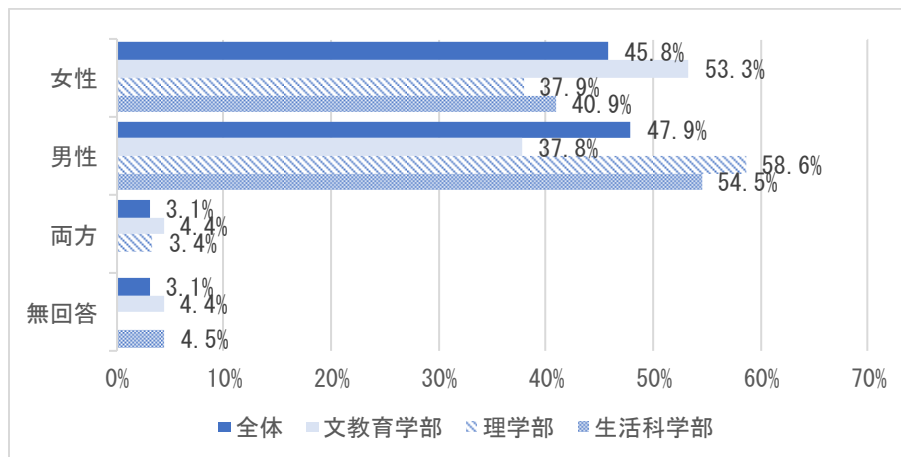
「父親」が12.3%であった。学部別にみると、理学部では「塾や専門学校の講師」から影響を受けたと回答した割合が14.8%と他2学部と比べて高く、生活科学部では「お茶の水女子大学の学生」と回答した割合が14.9%と他2学部と比べて高い結果を示していた。



図表 1-3 専門（学科）を選ぶ際に影響を受けた人

図表 1-4～1-7 では、専門（学科）を選ぶにあたって、「中学の教員」もしくは「高校の教員」から影響を受けたと回答した新生に、その教員について尋ねた結果である。図表 1-4 では影響を受けた教員の性別、図表 1-5 では教員の専門科目、図表 1-6・1-7 では教員の卒業大学について尋ねた結果を示している。

図表 1-4 では、全体でみると性別による特徴はほとんどみられなかった。学部別にみると、文教育学部では男性教員より女性教員から影響を受けたと回答する割合が高く、理学部・生活科学部では女性教員より男性教員から影響を受けたと回答する割合が高い。また図表 1-5 では、影響を受けた教員の専門科目が、自身の入学学科と深くかかわりを持つものである場合が多いことが示された。

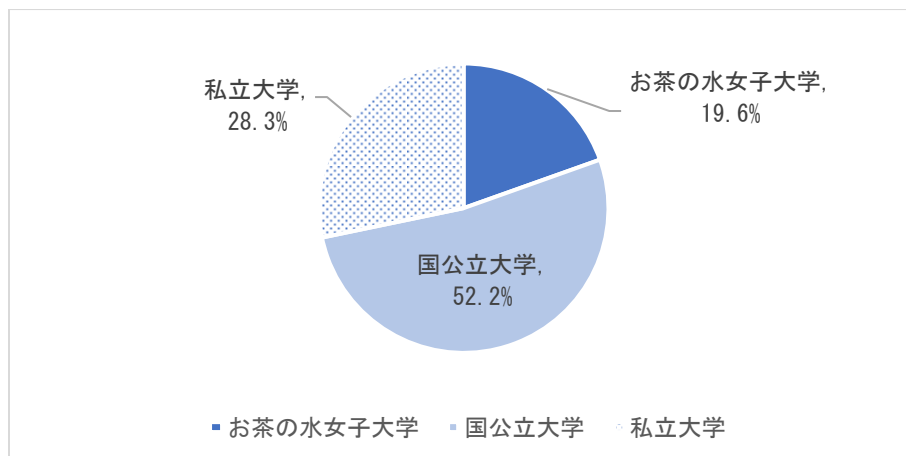


図表 1-4 影響を受けた教員（中学/高校）の性別

| 入学学部 | 入学学科 | 影響を受けた先生の専門 |
|-------|-----------|--|
| 文教育学部 | 人文科学科 | 世界史（3）、西洋史（ローマ）、地理、日本史/現代文、古典文学、日本文学、国語（2）/英語/数学（2） |
| | 言語文化学科 | 現代文、古典文学（源氏物語）、古文、日本文学（2）、国語（7）/英語（2）/民俗学/中国文学/数学/生物 |
| | 人間社会学科 | 国語/日本史/生物 |
| | 芸術・表現行動学科 | 音楽、声楽/国語/数学/英語/家庭科 |
| 理学部 | 数学科 | 数学（2）/古典・現代国語 |
| | 物理学科 | 物理（2）、超電導 |
| | 化学科 | 化学（6）、生物/数学/家庭科 |
| | 生物学科 | 生物（8）、藻、理科/国語 |
| | 情報科学科 | 化学 |
| 生活科学部 | 食物栄養 | 数学（3）/英語（2）/化学、生物、物理/家庭科/体育 |
| | 人間・環境学科 | 数学（2）/英語、外国語/国語/物理 |
| | 人間生活学科 | 国語（3）/英語（3）/政治経済 |
| | 心理学科 | 国語/教育（養護） |

図表 1-5 影響を受けた教員（中学/高校）の専門（カッコ内は人数）

図表 1-6 では、影響を受けた教員の卒業大学について、お茶の水女子大学、その他の国立大学、私立大学の割合を示したものである。また、図表 1-7 ではその卒業大学名を一覧で示している。影響を受けた教員の卒業大学について回答があったうち、19.6%がお茶の水女子大学を卒業した教員であることが示された。お茶の水女子大学以外では、その他の国公立大学が 52.2%、私立大学が 28.3%という結果となった。

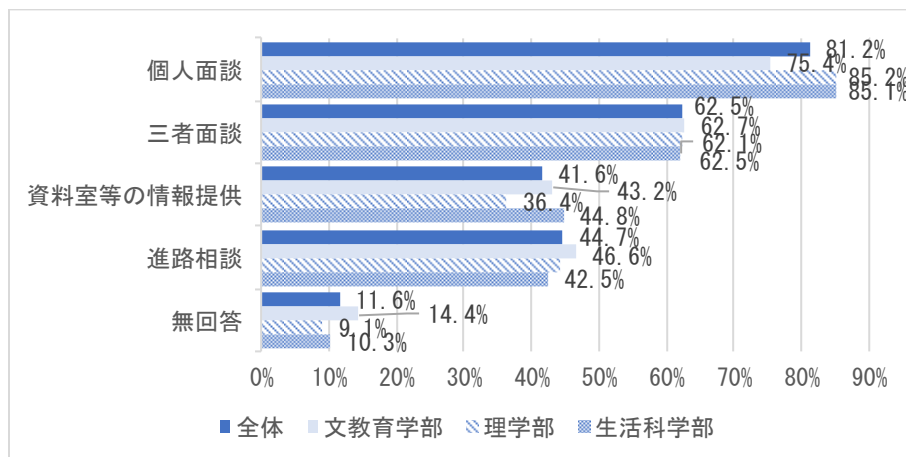


図表 1-6 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学

| | |
|------|---|
| 国立大学 | お茶の水女子大学（9）鹿児島大学、九州大学（2）、京都大学（2）、佐賀大学、島根大学、千葉大学、筑波大学（2）、東京大学（2）、東京学芸大学（2）、東京工業大学（2）、東京農工大学、富山大学、奈良女子大学（2）、名古屋大学（2）、新潟大学、北海道大学 |
| 私立大学 | 学習院大学、慶応義塾大学、国際基督教大学、東京理科大学（3）、南山大学、立教大学、早稲田大学（5） |

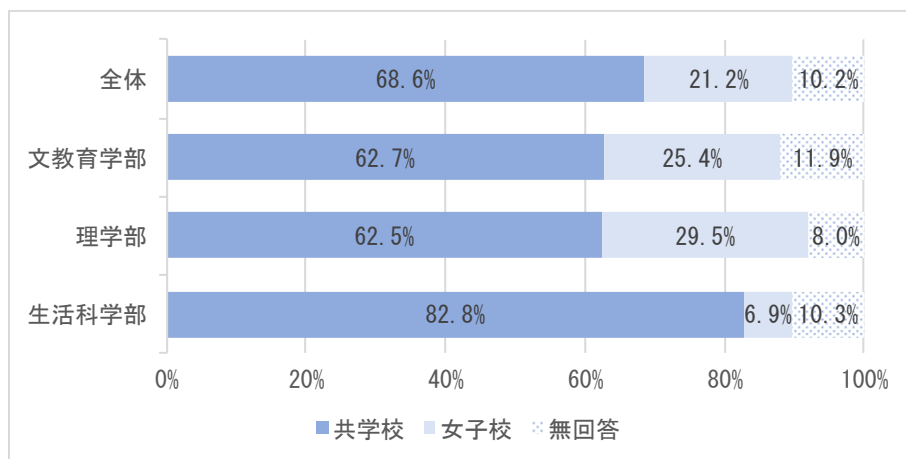
図表 1-7 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学名一覧

図表 1-8 では、高等学校で受けた進路指導がどのようなものだったかについて、「個人面談」、「三者面談」、「資料室等の情報提供」、「進路相談」の4つから複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も高い割合を示していたものは「個人面談」で81.2%であった。



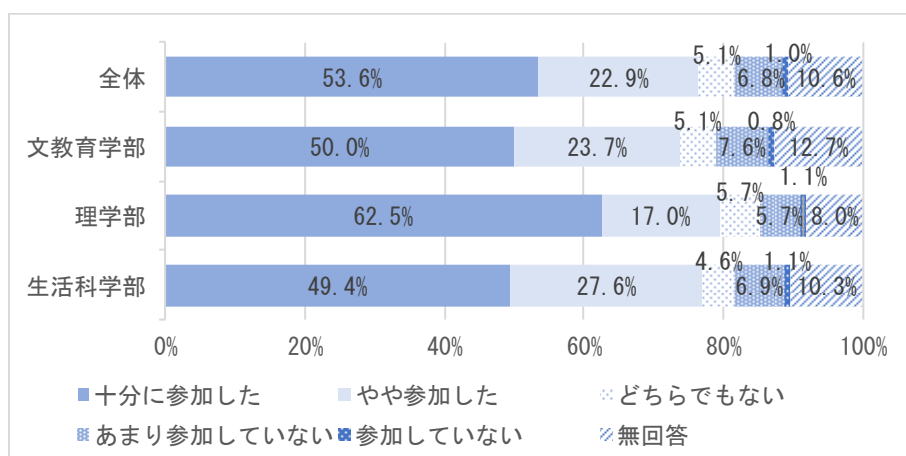
図表 1-8 高等学校で受けた進路指導

図表 1-9 では、出身高等学校について尋ねた結果である。全体では高等学校が「共学校」であると回答した割合が 68.6%、「女子校」と回答した割合は 21.2%であった。学部別にみると、生活科学部では、「共学校」と回答した割合が他 2 学部と比べて 20 ポイント程度高い結果であった。



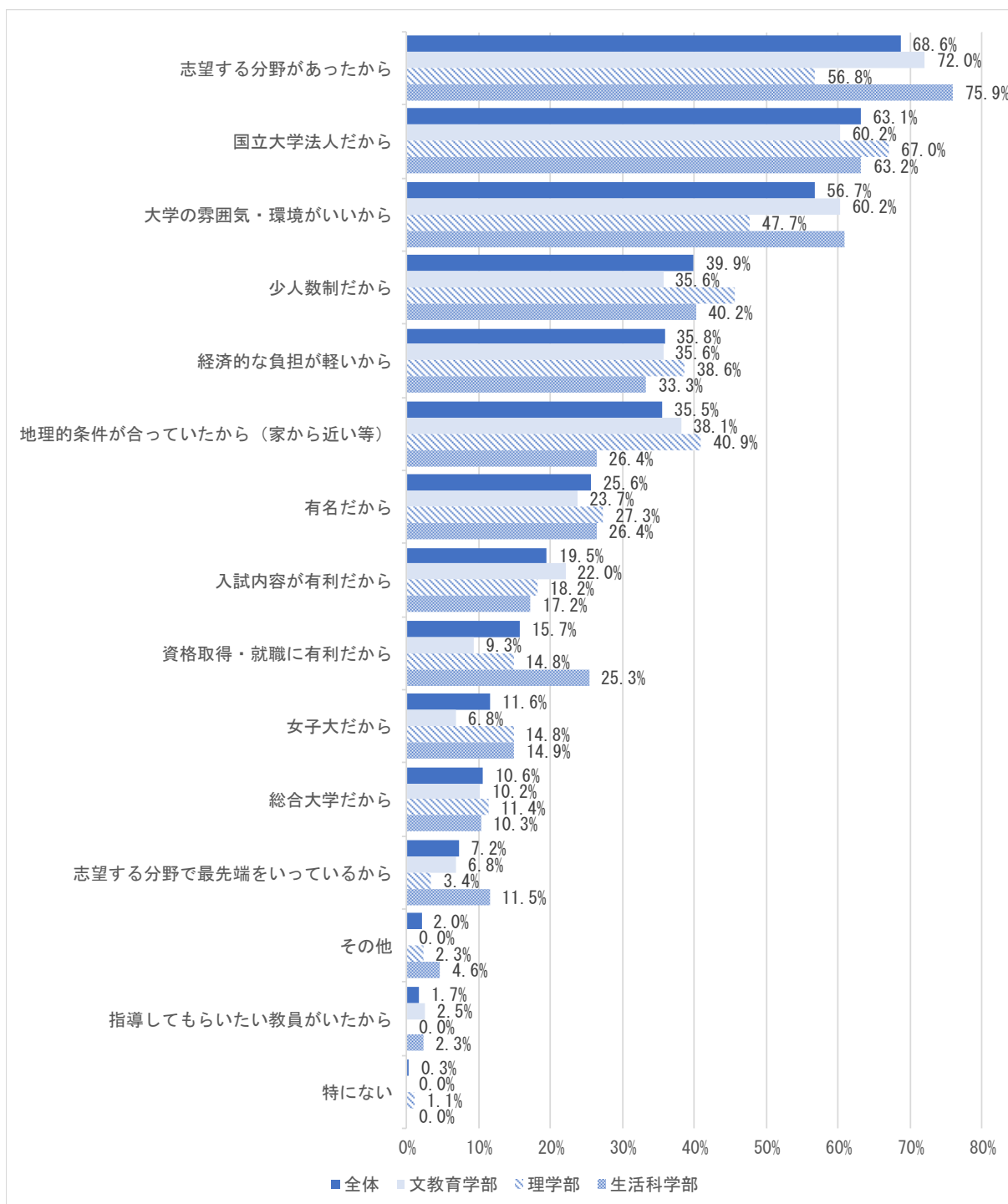
図表 1-9 出身高等学校について（共学/女子校）

図表 1-10 では、高等学校時代の理系科目の学修において、どの程度実験や実習に参加していたかを尋ねた結果である。全体で見ると、「参加した」（「十分に参加した」+「やや参加した」）と回答した割合は 76.5%であり、「参加していない」（「あまり参加していない」+「参加していない」）と回答した割合は、7.8%であった。3 学部で比較すると、「参加した」と回答した割合が最も多いのは理学部の学生で 79.5%であった。



図表 1-10 理系科目の実験・実習の参加度合い

図表 1-11 では、お茶の水女子大学を選んだ理由について、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものを複数回答で尋ねた結果である。



図表 1-11 お茶の水女子大学を選んだ理由（自分の学力や入試難易度以外）

全体で最も高い割合を示しているのは、「志望する分野があったから」で68.6%であり、次に「国立大学法人だから」63.1%、「大学の雰囲気・環境がいいから」56.7%が続く。学部別にみると、文教育学部・生活科学部で最も高い割合を示しているのは「志望する分野があったから」であり、理学部では「国立大学法人だから」が67.0%と最も高い割合を示している。